主编　侯仁锋

日本语听力

教学参考书　第三册

第二版

普通高等教育『十一五』国家级规划教材

华东师范大学出版社

普通高等教育“十一五”国家级规划教材

高校教材

教学参考书

日本语听力

第三册

第二版

主　编　侯仁锋
副主编　宫本晶子　梁高峰
编写者（按姓氏笔画排列）
王　晶　孙　莉　沈丽芳　侯仁锋
宫本晶子　段笑晔　梁高峰　薛红玲

华东师范大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本语听力教学参考书·第三册(第二版)/侯仁锋主编. —上海:华东师范大学出版社,2007.5
ISBN 978-7-5617-5366-8

Ⅰ.日… Ⅱ.侯… Ⅲ.日语—听说教学—高等学校—教学参考资料 Ⅳ.H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 066531 号

日本语听力教学参考书·第三册(第二版)

主　　编　侯仁锋
项目编辑　朱建宝
特约编辑　陈丽菲
文字编辑　陈丽菲　尹　宁
封面设计　黄惠敏
版式设计　蒋　克

出版发行　华东师范大学出版社
社　　址　上海市中山北路 3663 号　邮编 200062
电　　话　021-62450163 转各部　行政传真 021-62572105
网　　址　www.ecnupress.com.cn　www.hdsdbook.com.cn
市 场 部　传真 021-62860410　021-62602316
邮购零售　电话 021-62869887　021-54340188

印 刷 者　华东师范大学印刷厂
开　　本　787×1092　16 开
印　　张　15.75
字　　数　336 千字
版　　次　2007 年 10 月第一版
印　　次　2007 年 10 月第一次
印　　数　3100
书　　号　ISBN 978-7-5617-5366-8/H·325
定　　价　28.00 元

出 版 人　朱杰人

(如发现本版图书有印订质量问题,请寄回本社市场部调换或电话 021-62865537 联系)

出版说明

《日本语听力》教材初版于1998～2001年间。该教材的编写得到了日本国际交流基金会的大力支持，每册主编均应邀赴日，在日本语言和文化学界一流专家的指导下，几易初稿直至通过审核定稿。全套教材由五册组成，即入门篇、第一册、第二册、第三册和第四册。每册配有学生用书、教师用书和磁带。本套教材出版以后，得到了国内日语界的广泛认可，每册教材多次印刷，现已成为我国高校日语专业听力课程的首选教材。

随着时间的推移，日本的社会文化发生了巨大的变化，中国的日语教学理念也不断更新；广大教师在使用这套教材的过程中有诸多心得，也积累了不少经验。因此，我们决定修订这套教材，以适应上述变化，满足不断发展的日语教育的要求。

这次修订后的教材，由原来的五册改成四册，具体是：入门篇（内容不变）、第一册和第二册（修订内容均在1/2以上）、第三册（内容全新）；修订后的“教师用书”改为“教学参考书”，每册均配CD光盘（并有磁带供选用）。华东师范大学的沙秀程（现任日本九州女子大学教授）、徐敏民教授和杜勤教授继续担任入门篇、第一册和第二册的主编，第四军医大学的侯仁锋教授担任第三册主编。

为修订好这套教材，我们曾召开高校日语听力教师的座谈会。上海外国语大学、同济大学、东华大学、上海水产大学等一些高校的日语教育专家和一线的教师，对教材的修订工作提出了宝贵的意见，在此谨表示衷心的感谢。

2006年4月，这套教材被国家教育部批准为普通高等教育“十一五”国家级规划教材。我们相信，修订后的教材会以更高的质量呈现在广大读者面前，为我国的日语教育作出更大的贡献。我们真诚地希望，日语教育的专家、学者以及广大读者继续对本教材提出宝贵的意见，以便不断改进，精益求精。

华东师范大学出版社

2007年7月

前　言

《日本语听力》第三册，在华东师范大学出版社的大力支持下，经过八位在第一线教学的老师的共同努力，作为修订版，以崭新的内容和形式，付梓问世了。

近些年来，学界对听力的研究有了新认识，新见解，新成果。本册教材是在充分地吸收这些新的研究成果的基础上编写的，具有以下一些特点：

1. 听力材料完全是口语材料

听力课的目的是培养学生从声音媒体获取信息的能力。那么声音媒体是什么呢？不言而喻，就是“说”。即“听”的对象是“说”。所以听的材料必须是口语化的材料。口语材料又分对话型和独话型，这些本册教材都兼顾到了，所使用的听力材料都是自然、地道的口语文本。

2. 听力声音材料原汁原味

得益于因特网的四通八达和数码科技的问世，我们使用的材料不是自己重新录制的，而是从现场或因特网广播等上获取的，所以它不论是内容还是风格，如语速、语调、谈话形式等都原汁原味，使同学接受到真实的日语，同时也试试自己到底能听懂多少。尤其是听的环境是真实的，如车站广播，虽然会有些杂音，但实际情况就是如此。所以听这种材料不是纸上练兵，而是在水中学游泳。

3. 听力训练必须贴近现实

无论是题材还是体裁，我们在选择时，始终坚持必须贴近现实的原则。如题材，从车站广播、天气预报、政府公告、商业广告、童话、故事、广播剧、新闻报道等等，都是和日常生活密切相关的内容。体裁兼顾了对话、访谈、交谈、讲解、介绍、广播等多种形式。我们的这些设定，可以让同学将来接触到这些东西时起码可感到不陌生，而能够从容地去应付。

4. 尊重“听”的规律

“听”会受到很多客观因素的制约，如受人的生理方面的制约。因此听力和记忆力有关，相关研究表明，人在听的过程中的记忆能力只有20秒左右，这就告诉我们，听的每个片段不宜太长，若太长，即便听懂了也记不住。我们将每个听的片段设计得尽量短一些，以符合这个客观规律。又如，听力具有选择性，所以我们将设问放到了听的开始，使同学能有目的地去听。再者，遵循由易到难的原则，听第一遍设问些显而易见的信息，如时间、地点等；第二遍则就过程、梗概、大意进行设问；第三遍再设问具体细节及其判断正误。这样逐渐听懂每

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

个片段。

5. 突出获取信息能力的培养

以往的一些听力教材，从文本的选用到问题的设问，无异于精读课的设计和上法，仍在讲词汇练语法。本册教材从选材到设问，都以培养同学获取信息能力为出发点，强调听完每个片段后，通过重点设问、连环设问、多项选择、判断正误等，引导同学利用背景知识、相关信息、前后提示、逻辑推理等手段，在获取信息上下功夫，以培养其获取信息的能力。

6. 发挥"听"的"输入"功能

第二言语习得研究证明，外语能力的获得，需要大量的"输入"。"听"在外语学习过程中的另一个功能就是"输入"，所以本册教材安排了 20 课，而且每课又分课堂部分和课后部分，完全是出于这一考虑设计的。我们不奢望听完这册教材就能完全提高了听力，而是想由此告诉同学们，要去大量地听，只有达到了一定的量，才会有质的变化。

7. 本册教材的使用方法

本册教材供第二学年第二学期或第三学年第一学期使用。据我们的调查，这个阶段不少院校每周只安排一次两节听力课，所以本册教材按一个学期 16 周设计，一周一课，但考虑到不同院校的水平及进度不同，我们编写了 20 课，备下选择的余地。

每次两节课按 100 分钟编排，我们通过反复使用测试，认为每课的听力材料总长度，最好控制在 20 分钟左右(但根据其信息的密度，有的略短些有的略长些)。即每个片段设计听三遍，这样至少就用去了 60 分钟，同学答题时间约 20 分钟，其余为老师的提示、讲解时间。根据同学的程度，当然也可以听多遍。

具体听法如下：

听前，即"ウォーミングアップ"部分，根据内容的多少，给同学半分或 1 分时间浏览给出的信息，熟悉内容，真正做到"热身"。

所听内容按"○次の問題を頭に入れながら聞きましょう。""○では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。""○もう一度聞いて、確認しましょう。"三步设计，每步下都设有若干个具体听力问题，首先边听边看这些设问，同时浏览相应的选择项。否则，同学将不知道要听什么。然后，再开始听正式内容。

另外，我们前面提过，每个听的片段不宜过长，所以，我们根据内容，把一个长的听力材料分成几段来听，并分别设题让同学回答。这样就需要教师备好课，了解分段的所在。

再者，本册教材备有教学参考书，提供答案和听力材料文字稿，建议同学不要提前看，在听过几遍后实在听不懂时再看，只有这样做才对提高听力有益。

8. 说明

由于不少听力材料是即席对谈，谈吐中助词脱落、约音、音变等很多，其中也有口误，但文字文本中我们没做改动，请上课老师自己把握。对收录的单词，我们只做了本课用法的释义；另外，收录了不少地名、人名等固有名词，一则是因为读音较难，二则是我们觉得在听力理解中地名、人名等都是重要信息。

9. 致谢

我们在编写本册教材之际，为了确保听力所使用材料的原汁原味，从因特网等诸多媒体上选用了很多篇段。我们没能一一与所选篇段的媒体或作者联系，敬请原谅。并请理解我们的所为——完全是为了提高中国的日语教学。在本书的附录中，我们以“网络资源”的形式列出了所选用材料的各媒体，以表示我们诚挚的谢意。对策划、指导本册教材编写的陈丽菲教授、徐敏民教授、杜勤教授和高宁教授表示衷心的感谢。

教材的编写是一项十分严肃和重要的科研工作，我们力图本着严谨、务实和科学的态度编写本册教材，但是，由于水平有限，经验不足，错误与疏漏在所难免，敬请日语界同行和广大读者不吝赐教。

编　者

2006年10月9日于西安

目　次

授　業　用	課外自習用
第 1 課　童話(語り) / 1	・山形県佐兵の頓知話(語り) / 7
第 2 課　伝統行事(解説) / 10	・占い師の相談部屋(紹介) / 17
第 3 課　風習の数々(解説) / 22	・お酒の話(インタビュー) / 28
第 4 課　政府広報(会話・解説) / 35	・政府広報(解説・対談) / 43
第 5 課　生活安全情報(解説) / 47	・火災防止対策(解説) / 53
第 6 課　天気予報(対談・解説) / 56	・気象情報(対談・解説) / 63
第 7 課　商品広告(ラジオ広告) / 68	・その続き(ラジオ広告) / 75
第 8 課　駅構内・車内放送(オリジナル放送) / 79	・特急列車の車内放送(オリジナル放送) / 86
第 9 課　環境保護(現地レポート) / 89	・アロマセラピー　花粉症(解説) / 99
第 10 課　生き方(対談) / 104	・声優の紹介(対談) / 116
第 11 課　東京暮し相談(クエスチョンとアンサー) / 124	・赤ちゃんが笑う時(インタビュー) / 131
第 12 課　ニュース[政治・社会](ラジオニュース) / 135	・その続き(ラジオニュース) / 142
第 13 課　やさしさよ(対談) / 146	・思い出に残る映画(紹介) / 159
第 14 課　ニュース[経済](ラジオニュース) / 162	・その続き(ラジオニュース) / 170
第 15 課　健康に暮らしましょう(解説) / 173	・食べ方など(解説・インタビュー) / 180
第 16 課　自分を表現して(対談・解説) / 185	・自分の目指すもの(発表) / 194

第 17 課	ショートストーリー(朗読) / 199	・刺激(朗読) / 205
第 18 課	僕の愛した人(ラジオドラマ) / 207	・高天原高校新聞部(ラジオドラマ) / 216
第 19 課	ロボタン(ラジオドラマ) / 221	・ロボタン(ラジオドラマ) / 230
第 20 課	ニュース[スポーツ](ラジオニュース) / 233	・その続き(ラジオニュース) / 239

第１課　童話（語り）

スクリプト

内容１　童話１（8分15秒）

その1（3分35秒）

ある夜のこと、和尚さんは今日も大好物の水飴をなめていました。しかし、今日はいつもと様子が違います。そうです、和尚さんの様子を小坊主たちが障子のすき間からこっそり覗いていたのです。と、そのときです。小坊主たちが押し合いながら覗いていたので、バリバリバリと障子が破れてしまいました。「なんじゃ①、おまえたちは、そこでなにをしておる②。」「はい、和尚さまのその壺が気になって、何が入っているのかとお尋ねしようと思っておりました。」でも、ほんとうは、小坊主たちは中に入っているのが水飴だととっくに知っていたので、自分たちも食べたかったのです。「これか、これはだな、そう、毒じゃ、大人がなめても大丈夫だが、子供がなめては死んでしまう毒じゃ。」和尚さんはとっさにこんなことを言いました。

さて、夕方になって、和尚さんが帰ってきました。すると、一休さんが泣いています。エーン、エーン、エーン。「これ、一休、どうしたのじゃ、なぜ泣いておる。」「はい、和尚様、私は和尚さまが大事にしておられる硯を割ってしまいました。それで、申し訳ないと思い、毒を飲んだのですが、死ねないのです。」「何をばかなこと、そんなことで毒を飲むやつがおるか。で、その毒はどこにあったのじゃ。」「はい、昨日の夜和尚様がなめておられた壺に入った毒です。」「おう、あれをなめたのか、あれは毒というか、まあ、よい、二度とあの壺の毒を飲むでないぞ。」そう言って、和尚さんは叱ることもできず、がっかりして部屋に入ってしまいました。でも、仕方ありません。あれを毒だと言ったのは和尚様なのですから。

文法と言葉遣いの解釈

① なんじゃ:“じゃ”相当于现代日语的“だ”。

② そこでなにをしておる:“ておる”相当于“ている”,略带尊大语气。

解　答

○ 次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. a d c c b　　2. b

○ では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. a　　2. c　　3. d　　4. a

○ もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

a(×)　　b(○)　　c(×)　　d(○)　　e(○)

その2 (2分43秒)

さて、それから、しばらく経ったある日、こんなこともありました。和尚さんは囲碁が好きで、呉服屋の弥助さんを呼んでは、よく囲碁をしていました。しかし、囲碁が始まると、いつも夜遅くまで終わりません。小坊主たちは囲碁が終わり、弥助さんが帰るまで、寝ることができないので、弥助さんが来るのが悩みの種でした。そこで、一休さんはお寺の門のところに、こんな張り紙をしました。「獣の皮を着ている人は、寺に入るべからず①」というのも弥助さんはいつも毛皮を着ていたからです。しかし、その日も、弥助さんはいつものとおり、お寺に入ってきました。それを見た一休さんは言いました。「あれ、弥助さん、門に貼ってあった張り紙を見ませんでしたか。」すると、弥助さんは言いました。「見ましたよ、でも可笑しいですね。お寺にある太鼓はいいんですか。あれも獣の皮を貼ってあるじゃないですか。あれがいいのなら、私もいいはずでしょう。」弥助さんも少し頓知ができるようです。でも、一休さんにはかないません。「そうですか、なら、弥助さんは太鼓なのですね。ということは、バチで叩かれてもいいのですね、おーい、みんな、弥助さんを叩いて差し上げろ。」そう言って、小坊主たちみんなで弥助さんをたたこうと追い掛け回しました。弥助さんは「こりゃかなわん②。」と町へ逃げ帰っていきました。

文法と言葉遣いの解釈

① 入るべからず:和“べき”相对应,放在句末,表示禁止。

② こりゃかなわん:相当于现代日语的“これはかなわない”。

解　答

○ 次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. b c a d　　2. a　　3. b

○ では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

1. d　　2. b

○　もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

1. c

2. 弥助さんが自分を太鼓のように思った以上、一休さんはそれなら叩いてもいいと言い、小坊主たちに弥助さんを叩かせてお寺から追い払いました。

その3（1分47秒）

そしてある日、和尚さんと一休さんに手紙を送りました。手紙にはいつものお礼をしたいので、一度家に遊びに来てくださいと書いてありました。その手紙を受け取った和尚さんと一休さんは、早速弥助さんの家へ行くことにしました。さて、家の近くの川にかかった橋の前まで来ると、なにやら立て札が立っています。そこには「このはしをわたるべからず」と書いてあります。和尚さんは不思議そうな顔をしていますが、一休さんはおかまいなしに堂々と橋の真中を渡っていきます。「これ、これ、一休、立て札に『このはしを渡るべからず』と書いてあるぞ。」と和尚さんが言うと、一休さんはすました顔で①言いました。「はい、ですから、端ではなく、真中を渡っております。」そう言って渡ってきた一休さんに、弥助さんもすっかりかぶとを脱ぎました。

文法と言葉遣いの解釈

① すました顔：若无其事，满不在乎。

解　答

○　次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. c　　2. b

○　では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. d　　2. a

○　もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

1. a　　2. b　　3. a

内容2　童話2（12分29秒）

その1（3分38秒）

むかしむかし、ある所にそれはそれは美しいお姫様がおりました。姫はとても頭がよく、上品で、しかも、琴をとても上手に弾くことができました。そして、姫にはとても優しいお母様がいましたが、もう長い間重い病気で寝たきりでした①。お母様は自分にもし

ものことがあった時に、あとに残される姫のことが心配でなりません②。ある日のこと、お母様が寝ていると、夢枕に観音様が現れて言いました。「姫の幸せを願うなら、姫の頭に鉢を被せるとよいでしょう。」それを聞いたお母様は、次の日、観音様のお告げのとおり、姫の頭に鉢を被せたのです。そして、安心したお母様は数日後、姫を残して息を引き取りました。

それから何年間か経ったある日、お父様のところに新しいお母様が来ました。そのお母様は、姫の姿を見ると、冷たく言いました。「まあ、何て気味が悪いんだろうね。私は一緒に住むのはいやだよ。出ておゆき③。」こうして、姫をお屋敷から追い出してしまったのです。かわいそうな姫は一人でどこに行く当てもなく、泣きながらとぼとぼと歩きました。通り過ぎる人はみな鉢を担いだ姫のことを馬鹿にしたり、気味悪がったりします。そして、子供たちは「やーい、化けものだあ」と言いながら、石を投げつけます。そんな日が毎日続き、姫はくたくたに疲れ果ててしまいました。そして、これ以上生きていてもつらいだけだと思い、天国のお母様に言いました。「どうか私もお母様のところに連れて行ってください。」そして、川の中に入り、どんどん深いところまで進んでいったのです。

文法と言葉遣いの解釈

① 寝たきりでした：动词“た＋きり”的形式，表示该动作结束以后再没有发生。

② 心配でなりません：“～て（で）ならない”的形式可视为惯用句型，以否定的形式表示强烈的肯定，有汉语的“非常、不能不……”之意。

③ 出ておゆき：相当于现代日语的“出ていきなさい”。

解　答

○ 次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. c　　2. b　　3. d

○ では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. a、b、e　　2. b、d、e

○ もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

1. a. 姫様のお母様　b. 姫様の新しいお母様　c. 通り過ぎる人　d. 子供たち
2. たぶんよい人と出会って、幸せになると思います。なぜかというと、観音様が守っているからです。

その2（3分44秒）

ところが、どうしたことか、頭に担いだ鉢のおかげで、姫の体は水の上に浮いてしまい、沈むことができません。姫は水に浮かんだまま、川の流れに沿って、ずんずん流されていきました。ちょうどそのとき、川岸を武家の若君が通りかかりました。川に大きな鉢が

流れているのを見つけて、不思議に思った若君は、家来にあれが何か見てくるようにと命じました。そして、家来が鉢を川岸に引き寄せてみると、何とそこには若い娘がいるではありませんか。驚いた家来は、急いで娘を岸の上まで引き上げると、若君のところへ連れて行きました。若君は娘に言いました。「いったいこんなところでどうなされたのですか。」でも、娘は泣いてばかりで、何も答えようとしません。その姿を哀れに思った若君は、娘を屋敷で働かせてやろうと思い、つれて帰ることにしました。こうして、お屋敷で働くことになった姫は、毎日一生懸命働きました。

ある日、姫はお屋敷で琴を見つけ、少しだけと思い、弾き始めました。琴を弾いていると、お母様がまだ生きていたころの幸せだった日々のことを思い出し、涙が溢れてきます。そのとき、そばを若君が通りかかりました。そして、琴の美しい音色に心を奪われて、近づいてみると、そこには鉢を担いだ娘の姿がありました。「私は今までこんなにすばらしい琴の音色は聞いたことがありません。きっとあなたは身分の高い方なのでしょうね。こんな生活をされているのには、よほどの事情がおありなのでしょう。どうか私に話を聞かせてくれませんか」と若君は声をかけましたが、姫は何も話そうとはしません。ただ涙を流しながら下を向いているばかりです。

解　答

○ 次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. c　　2. c

○ では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. a　　2. a　　3. d

○ もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

1. a(○)　　b(×)　　c(×)　　d(×)
2. とても悲しかった上に、若君がどんな人か分からなくて、怖かったからでしょう。

その3 (2分51秒)

さて、それからというもの、若君は姫の琴の音色を聞くのがとても楽しみになりました。姫も優しくしてくれる若君のために、心を込めて琴を弾くのでした。やがて若君は、この鉢を担いだ娘と結婚したいと思うようになりました。その思いは日に日に強くなり、ある日両親に言ったのです。「私はあの鉢を担いだ娘を嫁にもらいたいと思っています。あの娘は、この家に来ても恥ずかしくないほどの身分も教養もあるかたです。どうか、結婚を認めてください。」それを聞いた両親は大変驚きました。そして、怒って言いました。「何を言っておるのじゃ、あんなどこのだれとも分からないものとの結婚は絶対に許さん①。」でも、若君が姫を思う気持ちは変わることはありません。そんな若君の気

持ちを知った姫は言いました。「私は一緒になりたいと思っていただいただけで、十分幸せです。でも、こんな姿の私と結婚されれば若君が馬鹿にされてしまいます。私はもうこの屋敷から出て行きますので、どうか、私のことはお忘れになってください。」すると、若君は「誰に何を言われても私はあなたと一緒になると決めました。もし、あなたが出て行くのなら、私も一緒にこの屋敷から出て行きます」と言い、二人は一緒にお屋敷を出たのでした。

文法と言葉遣いの解釈

① 許さん："ん"否定助动词，接在动词的未然形后，表示否定。

解　答

○ 次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. b　　2. c

○ では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. c　　2. d

○ もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

1. a
2. 自分も結婚したいです。が、自分と結婚したとすれば、若君も馬鹿にされてしまいます。そういうことが起こらないように、今のうち、別れたほうが若君にいいと思います。

その4（2分16秒）

さて、歩き始めてからしばらくすると、観音様を祭っているお堂が見えてきました。そして、二人はこれから幸せになれるように、観音さまに手を合わせて拝みました。すると、どうしたことか、今までどんなに取ろうとしても取れなかった姫の頭の鉢が、突然、真っ二つに割れ①、たくさんの宝石とともに姫の顔が現れたのです。その美しいこと、あまりの美しさに、若君は見とれてしまって、言葉もでないほどです。そして若君は頭の鉢が取れて美しい姿になった姫を連れて改めて両親に二人の結婚を認めてもらうために屋敷に戻りました。「父上様、母上様②、もう一度お願いに上がりました。どうか、この娘との結婚を認めてください。」そして、頭から鉢が取れた美しい姫を両親に紹介しました。すると、両親は姫を一目で気に入り、二人は一緒になることを許されたのです。こうして、鉢担ぎ姫は、優しい若君と一緒になり、ずっと幸せに暮らしたということです。

文法と言葉遣いの解釈

① 真っ二つに割れ："真っ"接头词，在这里表示"正好"，所以意思是"正好分成两半"。

② 父上様、母上様：対父母的尊称。

解　答

○　次の問題を頭に入れながら聞きましょう。

1. c　　2. d

○　では、更に次の問題を意識しながらもう一度聞きましょう。

1. b　　2. d

○　もう一度聞いて、次の問題に答えましょう。

お姫様がもう自分の幸せを見つけたから、観音様はそれを取り除いたのです。

課外でチャレンジしましょう

スクリプト

山形県佐兵の頓知話（4分31秒）

むかしむかし、あるところに、佐兵という、頓知の利く男が住んでおりました。ある日のこと、村の若い衆が集まって、酒盛りをしていました。そこへ佐兵がやってきて、戸の外から声をかけました。

「おおい、わしも仲間に入れてくれえ。」

でも、若い衆たちは、佐兵を入れてやりたくありませんでした。

「佐兵のやついつもうまいことを言って、ただで酒を飲んでいく、たまには自分も酒を持ってきたらええのに①。」

若い衆たちが、佐兵の呼びかけに答えないでいると、また、声がしました。

「おおい、はやく開けてくれないとこぼれちまうよ②。はやく、はやく、ああこぼれる。」

「おい、こぼれるって言ってるぞ、こりゃあ、珍しく酒を持ってきたに違いねえ。はやく開けてやれ。」

戸を開けてもらった佐兵は、ひょこひょこと中に入り、酒盛りの輪に、加わりました。見ると、酒なんて持ってきていません。

「やあ、佐兵、こぼれるって、酒を持ってきたんじゃないのか。」

「いやいや、なかなか開けてくれないから、悲しくなって、涙がこぼれるっちゅうたんじゃよ③。」

そして、みんなが持ち寄った酒をうまそうに飲み干しました。

また、ある日のこと、佐兵がお砂糖屋さんの前に立っていました。佐兵がいつまでも立っているので、お砂糖屋さんが声をかけました。「どうしたんだ、買うのか、買わないのか、はっきりしろ」佐兵は答えました。

「買いたいのはやまやまなんだけど、あいにく金がない。甘いものは大好きだから、砂糖だったら一山は食えるのになあ。」

それを聞いたお砂糖屋さんは、面白がって言いました。

「じゃ、お前さんが砂糖を一樽、全部食べたら、ただにしてやろう。その代わり、食べ切れなかったら、はだかおどりをしながら村中をまわるんだぞ。」

「よおし、その約束、忘れるなよ。」佐兵はにやりと笑って言いました。

やがて、あの頓知ものの佐兵が、砂糖を一樽食べるらしいというううわさを聞きつけた村人たちが、わらわらと集まってきました。

「さあ、佐兵、食べて見せてくれ。」

「佐兵と言えども④、これほどの砂糖は食べられまい。あきらめて、はやくはだかおどりをせい⑤。」

「こんなにたくさんの砂糖を食ったら、具合が悪くなるぞ。やめろ、佐兵。」

村人たちは思い思いの言葉を口にして、佐兵のようすを見ています。

みんなが見守る中、佐兵は、砂糖をべろべろ嘗め出しました。

「うまいのう⑥、甘いのう。」

ひとしきり嘗めると、佐兵は「では、今日はこのへんでやめとこうかの⑦」と言って、砂糖を食べるのをやめて、さっさと帰ろうとしました。

お砂糖屋さんが慌てて「おい、食べ切れないのなら、はだかおどりだぞ。」と言うと、佐兵はこうやり返しました。

「おれは、一樽を一日で嘗めると言ってはおらんぞ。毎日、少しずつ、おいしくいただくというわけさ。」

これにはお砂糖屋さんも村人たちも、あっけに取られて何も言えませんでしたとさ⑧。

おしまい。

文法と言葉遣いの解釈

① ええのに：关西方言，相当于“いいのに”。

② こぼれちまう：“ちまう”是“～てしまう”的缩音形式。

③ こぼれるっちゅうたんじゃよ：相当于现代日语的“こぼれるって言ったんだよ”。

④ と言えども：惯用句型，表示逆接关系，有汉语的“虽然……但是、即便……”之意。

⑤ はやくはだかおどりをせい：“せい”是“する”的命令形“せよ”的口语说法，关西一带多用，相当于“しなさい”。

⑥ うまいのう：“のう”稍旧的说法，相当于“なあ”。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com